

「現代教育科学」5月号

5. 誰が「国民国家」の担い手か—授業づくりの課題を問う

(1) 日本人としての意識をこそ！！

熊本市立出水南小学校教諭 村上浩一

ここでは、「国民国家」について授業する場合に、現場にどのような課題が存在し、どんな解決方法があるかという点で、書いていくことにする。

1. 国語科授業するのさ！

文部科学省の「小学校学習指導要領」において、各教科等の目標や内容に「国」という言葉が登場するのは、次の三教科と道徳である。

◆ 国語科↓「・国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」

◆ 社会科↓「・国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。」

◆ 音楽科↓「国歌『君が代』は、い

ずれの学年においても指導すること。」(第31—3)

◆ 道徳↓「郷土や我が国の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。」(高学年4—(7)等々)

2. 社会科授業での課題

社会科では、昨年「近現代史の授業改革」がなされていて、元気をもらったことを覚えている。私自身が「侵略」でつづられる歴史教育を受けてきて、「国民国家」を思考の外に置き去りにしてきていることを実感しているところだ。国を愛せずして、「国民国家」は問えない。もちろん、悪いことは悪いこととして糺していかねばならないが、それだけでは偏ってしまうこと

だ。「廃藩置県」や「地租改正」をはじめ、歴史の本質を探る授業が必要であ

る。そうすること、過去にこんな人々がいたのかという畏敬の念に変わっていく。私自身がそうであったように。

歴史教育で畏敬の念を持たせられるような授業が必要である。

ところで、第5学年の目標には「・・・国土に対する愛情を育てるようにする」という文節があるのだが、私の授業ではここが弱かったように思う。すなわち、地理教育で「国民国家」をどう扱っていくかである。

最近の明治図書で「日本人の気概」という文言のある本を読んでみたが、本当に「日本人として熱く」なっているのを覚えた。例えば、「ホンダ」「セイクオーツ」「VHS」等々を創った人々のことである。日本のお家芸である工業製品や技術をもっと取り上げ

るべきなのだと思う。

第5学年の(2)―ウに、「工業生産に従事している人々の工夫や努力、・・」とあるが、ここでもう少し以下のような

内容を取り上げていきたいものである。

- ① (教材として取り上げた企業の) 創業者のこと

- ② その技術開発にかけた意気込みや困難性

- ③ 世界一の技術(製品)としての素晴らしさ。

地理教育でも日本(人)の素晴らしさを伝えていく必要がある。

もちろん、これらのためには、すぐれた教材研究や開発が必要なことはいうまでもないことである。

3. 道徳授業での課題

ここに、ショッキンク? なCMがある。AC(公共広告機構)の広告だが、次がそのキャッチコピーである。

ニッポン人には日本が足りない。

最近の殺伐とした世の中を見ていると、まさしくこのことではないのか、と考えてしまうのは私だけだろうか。

最近の犯罪の多さ一つをとっても、そう思ってしまう。ルース・ベネディクト著『菊と刀』にも代表されるような様々な文化が私自身からもなくなってきたのだから。日本文化の善し悪しはあるにせよ、いいものは残していかなければならないのは、言うまでもないことである。

これは一重に、このような教育を受けてこなかったこと、そして自分がしなかつたことに起因しているのでは

はないだろうか。

このCMの冒頭には、「どちらまでお出かけですか。」という文章がある。例えば、このような文言を教材に授業したことがあるか、「否」である。ここに、問題が潜んでいると考える。教育の目標の1つは、文化を伝えていくことである。勇気や謙虚、節度等々を1時間の目標として授業していくことも当然必要だが、日本人としての「心」を忘れないようにしていく道徳の授業も必要ではなからうか。

昔からあった日常の作法や言葉から、日本という国を学ばせていく道徳授業も必要である。

「どちらまでお出かけですか」と、
AさんがBさんに声をかけました。
これを聞いたBさんは、どんなこ

とを考えたでしょうか。

当然、子どもは「いらぬ世話」「プライバシーの侵害」と答えてくる場合があるだろう。ここが現代社会の世相を示していると考えるのは早計だろうか。もちろん、AさんはBさんの行き先を知りたい場合もあるかもしれないが、「親近感」や地域のつながり、どんな生活を送っているのという隣人への気配りという意味がこの言葉にはあるのだ。こういう日本人としてのよさを子どもたちに伝えていきたい。そうであれば、これらの言葉は「死語」になりかねない。世界遺産ならぬ「言葉の日本遺産」登録が必要だと考える。

4. 日本人としての意識を！

「誰が国民国家の担い手か」というテーマだが、まずは我々大人が、子どもたちが「日本人としての自分を意識す

る」ところから始めていかねばならないと考える。幸いにも、国語科の分野では斎藤孝氏の日本語に関するたくさんの書籍等々が今話題となっている。音楽科でも、わらべうたや民謡の採用、中学校での和楽器必修、等々が掲げられている。

その反面、総合学習では国際理解教育として、他国理解や英会話の授業はよく目にするのだが、日本文化を知るといふ授業実践をあまり聞かないし、私自身、これといった実践がないのも事実である。まずは、日本人としての自覚を教師も含めて再認識していく必要があると考える。この作業が何よりアイデンティティの確立につながり、ひいては日本国民として、国家を考えるよすがとなっていくと信じる。